

祠（小祠・小堂） 1 ＜宝殿＞

江戸前期



記銘最古の
大原焼

宝殿 元禄 12 年（1699）（里庄町歴史民俗資料館）

大原焼で「宝殿」とは「祠」「小祠」の 1 つで土製の瓦質祠こと。備中南部では瓦宝殿・瓦宮・瓦厨子とも呼びます。
神社境内や屋敷の片隅、井戸の側、竈の横、巨樹の根元や田畑の脇などで見られます。屋敷神、火神、竈神、水神、氏神、山神、田神、金神、疫神、厄神など、人々の祈りの対象であった宝殿も今では祀り手も少なくひっそりと佇んでいます。

江戸中期



佐藤家先祖之碑の宝殿 江戸中期～大正（里庄町大原東）



高岡神社境内の宝殿 江戸中期～後期（年代不詳）
（里庄町高岡）



平井荒神社境内の宝殿（里庄町平井）
江戸中期頃（年代不詳）



安倍家畑地の宝殿（里庄町平井）
江戸中期～後期（年代不詳）

江戸後期



日吉神社境内の宝殿 文化二年（1805）銘
（里庄町川南）

安倍家邸内の宝殿
延享四年（1748）銘
（里庄町平井）



〇〇家邸内の宝殿
江戸後期
瀬尾勘二作 銘
（里庄町八ツ的）